

IAQGダラス会議について

1. はじめに

IAQG (International Aerospace Quality Group) ダラス会議が、2022年10月6日～14日に開催された。IAQG会議は、年2回 (春、秋) 開催されていたが、世界的な新型コロナウイルスパンデミックのため2019年の秋以降オンラインでの開催を余儀なくされてきたが、2022年5月に2年半ぶりにベルギーのブリュッセルでの開催にこぎつけたことに引き続き、52回目にあたる会議がアメリカ テキサス州ダラスで開催することができた。

JAQG (Japanese Aerospace Quality Group) からも3年ぶりとなるが、数多くのメンバーが対面で会議に参加した。以下に今回の会議の概要について紹介する。

2. 会議概要

IAQGは、「世界の航空宇宙、及び防衛産業に関わる会社が、互いの信頼に基づいて強力な協力体制を構築・維持することにより、価値創造の流れの全段階において品質の著しい

改善とコスト削減を実現するイニシアティブを推進する」ことを目的とした組織であり、アメリカセクター (AAQG; Americas Aerospace Quality Group)、アジア太平洋セクター (APAQG; Asia Pacific Aerospace Quality Group)、ヨーロッパセクター (EAQG; European Aerospace Quality Group) の世界3つの地域セクターにより構成される。IAQGは、APAQGの一員であり、IAQG活動に参画することにより、日本の航空宇宙産業界の意見を国際品質規格や国際航空宇宙認証制度のルール等に反映させている。

IAQGは、

- ・航空宇宙業界独自規格 (9100シリーズ規格) の制定及び維持
- ・品質改善のためのガイダンス資料の提供
- ・9100シリーズ認証制度の開発及び維持

を主な活動目的とした航空宇宙防衛産業の品質に関わる会議体であり、IAQG総会及び、それに先立って開催される執行委員会、戦略検討ワーキンググループ並びに各種分科会に



会場ホテル



て、中長期戦略の検討、作業の進捗状況の確認・調整等が行われる。(詳細後述)

JAQGは、IAQGのほとんどの活動へ積極的に参画しており、我が国の意見、及び9月に開催したAPAQG会議(オンラインでのバーチャル会議)で取りまとめたAPAQGの意見をIAQGに提案、反映する作業を行った。

3. 各論

以下に今回の会議における総会、執行委員会、戦略検討ワーキンググループ、国際航空宇宙認証制度管理チーム、並びに関係強化戦略部会等の内容を紹介する。

(1) 総会 (General Assembly)

総会では、執行委員会報告、セクターレポート、IAQG財務報告、戦略検討ワーキンググループ会議報告、各分科会活動の進捗報告な

どが行われた。

アジア太平洋セクターレポートでは、渡部秀 AP (Asia-Pacific) セクターリーダーが、APAQG会議の概要、APAQGメンバーの活動紹介、インドでの9100認証スキームの立ち上げ、日本での9120認証スキーム立上げに向けた活動の紹介が行れた。

総会では以下の事項が承認されている。

- IAQGブリュッセル会議議事録
- IAQG OMS (Operating Management System) リーダーの再任 (Ed Bayne氏 (Boeing))
- IAQG 財務官の再任 (Alex Valderrey 氏)
- IAQG 2023年予算の承認
- 2024年 春季IAQG会議を4月17日から20日にかけて、ベルギー ブリュッセルで開催する



総会の様子 (投票メンバー)

(2) 執行委員会 (Executive Committee)

執行委員会は、IAQGプレジデント、各セクターリーダー、財務管理チームリーダー等から構成され、IAQGの組織運営に関連する重要事項を討議する委員会である。

今回は、IAQG約款、上位規程の一部変更の協議、IAQG組織構成変更に合わせた運用規則構成変更、併せて行われるIAQG規格発行手順変更への対応方針設定等が行われた。また、財務関連の確認も行われ、総会に提案された。

(3) IAQG Operation Council

IAQG Operation Councilは、IAQGプレジデント、各セクターリーダー、財務管理チームリーダー、各分科会リーダー及びIAQG投票メンバの参画により運営され、各分科会の活動方針の検討・設定等が行われている。今回は、プレジデントからIAQG約款、上位規程の改正、運用規定管理 (OMS) チームリーダーから運用規定構成の変更、PSCI (Product & Supply Chain Improvement) 分科会の活動方針が説明され、対応方針が確認された。

(4) IAQG 規格発行方法変更に伴う関連会議

IAQGでは、航空宇宙及び防衛分野の品質

に関わる国際規格などをIAQGとして発行する変更を進めており、規格発行プロセスのためのIAQG Standard Council (IAQG 投票メンバー会社代表による規格発行承認を行なう) 及びIAQG-1 Standards Committee (規格発行に際し規格内容の議論を踏まえ内容を決定及び決定を行なう) の二つの会議体のキックオフが、各社代表による参加の元、開催された。変更後のプロセス導入のための規格発行方法説明、IAQG参加各社の責任・役割等の理解を深める一方で、運用開始にむけた問題点等も議論され、今後解消の上、プロセス導入に向かう旨、確認された。

(5) 規格要求分科会 (Requirements Team)

本分科会では、9100規格 (国内ではJIS Q 9100として発行) をはじめとする9100シリーズ規格 (9100規格とそれを基に作成されている9110、9120及び9115規格) を含め、製品とプロセスの整合性・完全性を改善していくための品質要求事項制定や展開支援文書を作成・維持している。今回の会議では、後述の通り、9100規格等の現在IAQGで新規開発・改正中の規格についての作業状況報告、及び協議が実施された。



IAQG-1 Standards Committee会議の様子

JAQGからはアジア太平洋セクターにおける規格関連活動として、SJAC規格（SJAC 9114：航空宇宙組織におけるダイレクトシップに関する手引き）の改正版が発行されたこと、9月にウェブ会議で開催されたAPAQG会議の結果等を報告した。

JAQG規格検討ワーキンググループでは、IAQGでの作業が完了した規格に対応する国内規格の新規制定・改正作業を進めているほか、規格と合わせて作成される展開支援文書の和訳版作成を進めており、適宜JAQGメンバーに提供できるよう国内作業を進める予定である。

主な規格関連作業の分科会活動状況を以下に紹介する。

① 9100規格「航空、宇宙及び防衛分野の組織に対する要求事項」

現行版の発行から5年が経過するため、2021年度からIAQG関連組織、関連規格、各

種ステークホルダー等から9100規格次期改正に向けての意見を募集してきた。前回のブリュッセル会議では、集められた意見について、9100規格次期改正への反映要否を検討し、今回のダラス会議では、9100規格に具体的に反映する案について協議した。現時点で規格の大幅な変更は予定していないが、APQP（Advanced Product Quality Planning and Production；先行製品品質計画）の考え方の採用、QMS（Quality Management System）に関連する情報セキュリティ要求事項の追加、倫理的な要求事項の強化、異物管理要求事項の強化等を検討した。

今回のダラス会議で、9100次期改正規格のコンセプトの検討が終了したので、今後は、厳選されたメンバー（日本からも1名参加）で9100次期規格の改正作業を開始する予定である。引き続き、9100規格改正作業に取り組んでいく。



9100 チーム集合写真（日本からは、西口氏（MHI）、白井氏（KHI）が出席）

② 9101規格「航空、宇宙及び防衛分野の組織の品質マネジメントシステムの審査実施に対する要求事項」

9100シリーズ規格を適用した第三者認証審査の要求事項を規定した9101規格に関して、ここ数年間改訂版ドラフトの作成・調整が行われ、その後IAQGにおけるバロット（投票）の結果ドラフトが承認されたところであるが、今回のIAQGダラス会議では、OASIS V3との関連における問題点の把握・調整、改訂版向けFAQの作成などについて協議された。なお、改訂版9101規格（Rev.G）はIAQG3セクター（欧・米・アジア）において間もなく同時発行される見込みである。

③ 9102規格「航空宇宙 初回製品検査要求」

次期9102規格C改訂版は、前回（2019年秋）のベルリン会議で作成に着手され、定期的な対面会議で仕上げていく計画だったが、コロナ禍のためオンライン会議が唯一の手段となり、足掛け3年、今年ようやく改訂案が完成し投票が行われた。ただし、その後さらに修

正がなされたため、正式発行は来年早々となる見通しである。

今回の3年振りの対面会議においては、10月11日～13日の3日間、9102マニュアルづくりに特化したチーム作業が行なわれた。既に米国内のサブチームによって作成が進められていたドラフトが開示され、チームとしてのレビューを行なった。盛り込まれるべき内容としては、

- ・解説：規格要求に補足が必要なところを解説（全てに付ける訳ではない）する。
- ・Common Mistakes（Pitfalls）／Process Nonconformances：こうやるのは間違いという例を示す。
- ・Best Practice：好例。ただし絶対にそうやらねばならないというものではなく、あくまでも例として示す。
- ・Samples：見本が必要と思われるところに印を付けた。（が、まだ内容はない。）等々。今後仕上げていき、ゆくゆくはSCMH（Supply Chain Management Handbook）にも収録される予定である。



9102 チーム集合写真（日本からは、小原氏（IHI）が出席）

(6) 製品及びサプライチェーン改善 (Product and Supply Chain Improvement) 分科会

本分科会は、製品やサプライチェーン改善のための活動支援を目的とした活動を行っている。その一つがSCMHの作成・維持であり、サプライヤが顧客の要求・期待や組織の目標を満たすためのガイダンスを提供している。本会議では、現在進行中の各SCMH開発／改正プロジェクトチームの作業進捗状況を確認するとともに、今後さらにSCMH活用を普及させてゆくための諸施策について議論を行った。課題はSCMHガイダンスの内容について理解を深めてもらうこと、及び、SCMHの使い勝手の向上である。前者のユーザーに支援策としてSCMHライターによるウェブセミナーを定期的に開催しており今後も継続することを確認した。また、SCMH文書数は現在200点を超え、文書検索も複雑になっていることからSCMH HP上に、9100規格条項とSCMH各項との対応表を公開した。さらにAIMM (Aerospace Improvement Maturity Model) との連携についても議論が行われ、今後、様々な文書とSCMHを連携させることで利便性向上を図ってゆく計画である。

JAQG SCMHワーキンググループでは、IAQGで発行されるSCMH文書を順次和訳し、JAQGメンバー専用ページで公開しているので積極的に活用して頂きたい。また、SCMHをJAQGメンバーの皆様説明する機会 (SCMH説明会) を開催しているので、多数御出席賜りたい。

(7) パフォーマンス評価分科会 (Performance Team)

本分科会では、IAQG活動と航空、宇宙及び防衛産業界の品質改善に関して、2010年よりアンケートを行い、データの収集・分析を

行っている。従来、各社の品質指標の公開を望む声があったため、様々なデータが含まれると言われているOASIS V3を活用して品質指標を算出することを、本分科会では検討している。今回の会議においては、OASIS (Online Aerospace Supplier Information System) V3が提供できるデータ情報の説明を受け、具体的な公開品質指標の検討に着手した。納期遵守率、流出不適合発生率等が候補として上げられ、またこれを公開するダッシュボードの作成も含めたスケジュールを議論した。その結果、2年後の公開を目指して活動を推進していくこととした。

一方、通常年末に実施している年次アンケートの2022年版の内容を確認し、11月に各社に依頼を行うことを確認した。年内には回収を完了し、分析に着手する計画である。

(8) 国際航空宇宙認証制度管理チーム (Certificate Oversight Team : COT)

COTは、航空宇宙品質マネジメントシステム認証制度の運用に必要な規格の作成、認証制度の運用管理や各セクター間の相互監視等を行っている。認証制度の運用に必要な規格である9104-1規格「認証プログラムに対する要求事項」の改正版を発行済、9104-2規格「登録／認証プログラムのオーバーサイトに対する要求事項」、9104-3規格「航空宇宙審査員の力量及び研修コースに関する要求事項」規格の改正準備をほぼ終えており、本会議では、各規格改正に伴う認証制度移行状況確認、移行における問題点抽出を踏まえ変更内容の検討、審査員教育コース設定準備等を協議、また、各セクターの認証制度運用状況報告を踏まえ、運用中の認証制度の問題点への対応、将来計画等の議論を行なった。現状の認証制度の維持

及び要求事項変更に関わる移行活動を引き続き継続する。

(9) 国際スペースフォーラム分科会 (International Space Forum)

本分科会は、9100シリーズ規格への宇宙固有の品質要求の反映と宇宙分野のステークホルダーへの啓蒙を主たる目的として活動を行っている。JAQG スペースフォーラムは、アジア太平洋セクターの代表として、出席している。分科会には、宇宙関連企業に加え、主要ステークホルダーである宇宙機関（NASA、ESA、JAXA等）が参加され、ステークホルダーとの綿密な情報交換の場として、今後の宇宙製品&サービス保証や分科会に対する提案等の議論が活発にわれている。

IAQGグラス会議期間中に、本分科会は10月11日（火）に開催され、アメリカ（AAQG）、

欧州（EAQG）、アジア太平洋（APAQG）各セクターの活動報告や、国際スペースフォーラムとしての2024年までの活動方針等を協議した。APAQGのセクター活動として、宇宙産業での9100シリーズ規格やAIMMのより有効な活用方法の検討状況や今年11月のAPRSAF-28（28th Asia-Pacific Regional Space Agency Forum）の開催に合わせて行うプロモーション活動計画などを報告した。また、今後の分科会活動として、宇宙関連企業からのIAQG活動への参画拡大を狙い、ミッション成功を共通の目標としている宇宙保険業界と連携を図る活動を提案し、快諾された。

今後もアジア太平洋セクターの代表として、セクター内の宇宙業界への啓蒙を図り、活動活性化を推進し、その活動をIAQG活動へ反映するために積極的な参画を行っている。



国際SFメンバー集合写真

（日本からは、佐藤氏（SJAC）、葛西氏（JAXA）、松井氏（IA）、武内氏（MELCO）、立岡氏（NEC）、粟屋氏（NEC）が出席。山田氏（MHI）がリモートにて参加。）

4. おわりに

今回の会議では、規格、SCMHの開発、IAQG規格の発行手順の改訂等について活発な議論が行われた。又、永らくAPAQGセクターリーダーとして、APAQG活動を主導してこられた前APAQGセクターリーダーの岡本勇司氏のこれまでの貢献に対して、IAQGからの表彰があったことを報告する。

これからも変わらず積極的にIAQG活動に関与して行く。



岡本氏が受賞したメダル

〔(一社)日本航空宇宙工業会 航空宇宙品質センター 事務局 部長 前畑 貴芳〕